



山王台だより2月号

令和4年1月31日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

不易と流行

副校長 三浦 達郎

先日、3年生と5年生が区の一斉授業研究会で社会科の授業を公開しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、役員を除き区の先生方に来校していただくことはできず、リモートでの開催となりました。

3年生の授業では「みんなに愛され発展してきた市電がなぜ廃止されてしまったのか?」、5年生では、「なぜ、電気自動車はいいところがたくさんあるのにみんなは買わないのだろうか?」というそれぞれの学習問題について自分が調べたことをもとに根拠をもって熱心に話し合いました。

この2つの学習問題に共通するのは、一見矛盾した問いの中に、時代の流れの中で変化するもの「流行」とその変化をもたらした中核になる考え「不易」があるのだと強く感じました。市電は、「より多くの人を短時間で輸送していた市電が、それを上回る能力の鉄道や地下鉄に活躍の場を奪われていくこと」。また、自動車は、「スピードや効率を重視した車づくりが、環境にもやさしいというさらなる快適さを求めていくこと」。いずれも「私達の生活をより快適に便利にすることができるように」という願いが「不易」で、それを達成するための技術革新が「流行」であると言えるのではないのでしょうか。

当日、参観された先生方から、「子ども達の挨拶が素晴らしい」とほめていただきました。山王台小学校が大切にしてきたこと、そしてこれからも大事にしていきたい目指す姿「不易」、それは、「人を大切にすること」「自らの問いをもって一つのことを追究すること」であるとこの日の子ども達の姿から教えられました。



新型コロナウイルス禍、当たり前のことがあたりまえでないということに気付かされました。こういう時だからこそ、私達が目指す「不易」の姿を確認するとともに、その実現に向けて、「流行」に流されることなく、自らの意思で「流行」を創造していくことが大切であると思います。残り2か月の中で、この1年をしっかりと振り返り次の一步を踏み出す契機としていきたいです。